

国鉄「分割・民営化」反対 / 三里塚二期工事阻止！

革マル松崎、日経連「トップ・セミナー」(8/27)で首切り叫ぶ 「新たな戦前」への道=鉄道労連解体

新生「動労」(吉田委員長)の決起で 松崎の面目丸つぶれ

八月二七日、動労革マルのファシスト支配をうち破り動労水戸地本が分離独立をかちとったその日、動労革マル松崎は、山梨県富士吉田市で行われた日経連の「経営トップ・セミナー」に講師として登場し「労使協調」を叫び、奴隷の忠誠を誓い、労働者の首切りを積極的に進めることをブルジョアジー共に言い切ったのである。絶対に許すことはできない。鉄道労連を労働者の怒りで解体せよ。

「終身雇用制」を売り渡す

この日松崎は、日経連名誉会長・大槻文平、住友電工会長・亀井正夫など日本を代表する資本家共が居並ぶその眼前にしゃしゃり出て講演を行った。

開口一番松崎は「余剰人員の派遣受け入れで各企業にお世話になり、JRを代表してお礼を言い参った」と、これまで当局が一方的に強行してきた「強制出向」攻撃が、実はその裏で松崎と当局が結託して行ってきたことを自ら吐露したのである。

さらに松崎は、「終身雇用制を見直すべきだ」と提案し、これまで日本の労働者がかちとってきた世界にも類例の少ないこの制度を売り渡し、労働者の首切りをまたしても積極的にすすめることを講演の中で言い切ったのだ。なんとという破廉恥漢であろうか。絶対に許すことはできないのだ。

新たな戦前へ突き進む

また、これまで二回勝共連合の機関紙『世界日報』に登場していつてきたように、この講演の中でも松崎は、「日の丸に反対するのが革新の証だなんてナンセ

ンス」と言い切り、ますます「日の丸」を掲げた労働運動を推進し、もって戦前の産業報国会、いやそれ以上の「新たな戦前」を創りだそうとしているのである。まさに現代のナチスであり、ナチスならではの口で資本家に取り入り、延命の道をなんとか確保しようとかあがいているのである。

松崎の面目丸つぶれ

しかし、革マル松崎がいい気になって講演し、資本家共からちやほやされているその同じ日、松崎の足元である水戸において、動労水戸地本が鉄道労連から脱退し分離独立をかちとり、新生「動労」を結成したのである。松崎にしてみれば「燈台もと暗し」である。資本家共を前にして松崎は、完全に面目丸つぶれというところでもないことになってしまったのだ。

まさに労働者の怒りの決起によって松崎は大打撃を受けたのである。

さらに、広範な労働者の怒りを結集し、「日の丸」を掲げ、戦争への道を掃き清める革マル松崎―鉄道労連を解体せよ。

9・22 青年部支部交流会
千葉運輸区支部組合事務所 18日